



今年の教区目標

平和は聖なるもの 神のみ旨
絶えざる和解の旅

〒902-0067 那覇市安里3-7-2

カトリック那覇教区本部

TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474

発行人 W.F.バートン司教 1部40円

<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2026年2月1日 (毎月1日発行) カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ 第807号 (2月号)

聖書のシャロームとミサの祝い方の問題

～ 2026年 那覇教区 教区目標を巡って ～



浜崎 眞実
(開南教会主任司祭)

「正義と平和」は聖書の大切なキーワードとして度々ペアで登場します。しかし誤解もあるようです。「平和はいいけど正義はそれを振りかざす人がいるから良くない」とはよく耳にするフレーズです。神からの正義は語らなくてはならないのですが、問題は自ら正義や真理を所有していると確信する人が一定数いて、その人とどう向き合うのかです。しかもそれは第二バチカン公会議前のカトリック教会の姿勢でもあったことを忘れてはならないでしょう。また「平和」についても、かつての首相が特殊な使い方の意味を倒錯させたことがあり、平和を宣う人も危険です。正義は個人の正義感の強弱ではなく、社会正義のことであり、平和も先制攻撃をする平和ではなく、加害の自覚から赦しを願い和解の道を歩むことです。教区目標も業界用語を避け、キリスト教界外にも通じるよう

に言い換えると、「抑圧と差別のない世界、自由と平等の社会、それっていいですね」と言える社会を目指して歩むこと、或いは「基本的人権が守られている世界を共に築いていきましょう」となるのではないのでしょうか。平和はキリスト教界の中だけで実現できることではないことも肝に銘じておくべきでしょう。ウエイン司教の提示した教区目標への具体的な応答としては、人類の知的遺産として聖書を学び人権の観点から社会活動を市民と共に実践する場を作ること提案します。

< 契約関係用語の「正義と平和」 >

慈しみ(ヘセド)、正義(ツダカー)、まこと(エメト)、裁き(シャファト)、平和・和解(シャローム)などは契約関係用語として互換性があります。すなわち入れ替え可能なことばですから、平和は残し正義を削除ではまずいのです。詩編 85 編には正義と平和の関係や契約関係用語が現れ、聖書の語る「平和」について重要な箇所です。学ぶ機会があるといいですね。聖書の語る「正義」はほとんどいつも社会的な関係性を視野に入れ、傷ついたところのない状態(平和)を実現させる働きを指します。抑圧と差別にある人を放っておかず、そこからの解放のために共に立ち上がる行動を起こすことが正義です。

「平和(シャローム)」は契約関係用語です。ご存知のように旧約と新約が提案している人間の生き方は契約に基づいています。契約というからには、当事者がいて当事者同士が何らかの契約事項に基づいて、約束を交わします。お互いに契約したことを守るという約束を交わすのです。その上でお互いが守ると約束したことが守られている状態を指してシャローム(平和)といいます。シャロームというのは「完全性」とか「全体」という意味から出てきた単語のようです。聖書の勉強会ができるのなら主な用例を確認できたらいいのですが・・・

シャロームということばは命が損なわれずに、全てがうまくいっているという意味での「平和」といっても構わないでしょう。しかし通常旧約でも、イエスが最期に語ったとされるヨハネ福音書にある「告別説教(ヨハネ 13～17章)」の中でも、契約を前提にせずにシャロームを語るのは危険です。

< 契約再締結の儀式としてのミサ >

そして大抵、「契約を破った」ことが聖書では問題になります。日曜ごとにキリスト者が集まるとしたら、一週間の間に約束を破るから集まるのです。それゆえ和解のための集まりです。ですから「和解」というのがシャロームです。カトリック教会の典礼では非常にはっきりと出ています。最初から約束に背いたことを自覚する典礼があり、次にそれをゆるしてもらう為の神からの清めの典礼があります。神からの清めとは水を振りかけたりするのではなく、神のことばを身に浴びることなので聖書を朗読するのです。それから読まれた聖書の解説があります。福音書を読むので、本来なら読まれた箇所を会衆に解りやすく、少し分かち合います。要するにナザレのイエスの実践です。そういうことをすべきですが、難しいです。

その後清められて、神と契約の再締結をする。約束を結び直す為、契約の締結には必ず「神人共食」の食事があるのです。それは古代オリエントからのならわしです。神の名において両者が約束の批准の食事をします。すなわちミサ(聖餐式)です。ですから、ミサの時に「主の平和」とお互いに言い交わし、それが終わって教会から帰るときに「行きましょう。主の平和のうちに」と言って派遣されます。それは、平和というよりは、和解し完全に約束を結び直したから新たな心で生活の現場

(2頁へ続く)

に戻り神との約束を実践しましょうということです。このように古代オリエント世界の生み出した人類の知的遺産の聖書に基づいてカトリック教会のミサは説明できます。

<ミサの祝い方に問題>

ミサについて次の指摘は30年以上前ですが、今も心に留めておくべき大事なことです。A. ニコラス神父 (s.j.) は、ミサについての根本問題として、信徒向けの神学講習会で以下の問いを発しています。

問い：①ミサが若者に魅力を感じさせないのはなぜ

②ミサが喜びと希望を与えないのはなぜ

③ミサに欠かさず出席している熱心な信徒、修道者達が偏見に凝り固まっていたり、国籍や社会的地位や教養などの差別意識をもちつづけていたりしているのはなぜ

④ミサを祝っているキリスト者の共同体が、周りの社会に何の影響も与えることがないのはなぜ

⑤ミサによって自己を表現している共同体が、イエス・キリストの福音の理念、ヒューマニズム、正義、新しい生き方を社会にもたらすことがないのはなぜ

以上のような問いは、私たちのミサの祝い方に問題があることを示している。

(アドルフ・ニコラス「教会の秘跡としてのミサ」百瀬文晃編『教会その本質と課題を学ぶ』サンパウロ1995年) 「私たちのミサの祝い方に問題がある」との指摘を受けて、ミサを「契約再締結の儀式」と捉えてみました。その上で、ニコラス神父の問いへの具体的な応答としては、「主日の福音」を学び分かち合う場を作ることでしょう。それは、神と約束しているのは何であるのかを明確にし、それに自覚的に生きるようになるためです。小教区レベルで取り組むのが難しいなら、カトリック教会の伝統の「補足性の原理 subsidiarity」で、教区がサポートすることも考えていただけたらいいのでしょうか。

A Celebration of Faith and Festivity

Fr. Rodney M. Mondido, MSP

On January 18, 2026 (Sunday), we joyfully celebrated the Señor Sto. Niño Feast Day at Gushikawa Catholic Church. This special occasion was graced by the presence of Bishop Wayne Francis Berndt, OFM. Cap, the Bishop of the Diocese of Naha, alongside with religious nuns and many faithful individuals from various parishes, including persons working at the nearby military base.

The celebration began with a Mass, where the community gathered in unity and reverence. Following the Mass, we held a religious procession where many attendees carried their Sto. Niño images. The atmosphere was inspiring, filled with faith, joy, and a deep sense of community.

To enhance the feast day, we set up several food stations for lunch. The star of the meal was “Lechon”, a whole roasted pig, which quickly became a crowd favorite and sold out in no time!

In addition, we organized fun games to spark excitement among attendees. One of the highlights was a game called “Bring Me Something,” where people raced to present items from various lists to win delightful prizes which brought laughter and cheer.

The thrill of anticipation filled the air as people eagerly waited for the raffle draws that featured exciting prizes, including many packs of rice, chocolates, household supplies, and electronics.

The festivity was further enhanced by traditional “Sinulog” dances and song performances. Also, children brought extra joy to the event as they enthusiastically rendered a special dance number.

Overall, this year’s Feast of Señor Sto. Niño 2026 was indeed a success. Everybody received a special religious gifts blessed by Bishop Wayne for remembrance. As everyone departed from Gushikawa Church, they did so with smiles on their faces and warmth in their hearts, knowing that Señor Sto. Niño (The Little Child Jesus) had blessed everyone.

Words cannot express our gratitude to everyone who made the Señor Sto. Niño Festival a success! Your incredible support, both financial and spiritual, has turned this celebration into a simple tapestry of faith and festivity. May Señor Sto. Niño continue to inspire faith and joy in your life! Viva Pit Señor!



Announcements

Come and join us in celebrating the 53rd Anniversary of the Establishment of Naha Diocese. The celebration will also honor priests and religious celebrating their 25th Ordination and Perpetual Profession Anniversaries, respectively.

In addition, one couple from Yonabaru and Oroku Catholic Churches will celebrate their 50th Wedding Anniversary.

Date: February 11, 2026 Holy Mass: 2:00 p.m.

Simple reception: to follow at the Main Hall of Asato Church

2026年1月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時: 2026年1月6日(火) 10:00~12:00 於・那覇教区センター

開式の祈りはウェイン司教が担当、司会はブイ神父が担当した。

祈りの後、ウェイン司教からオブザーバーとして参加の大西神父(パウロ会)が紹介され、大西神父からも自己紹介と挨拶が行われた。

1. 報告及び連絡事項

- ・前回(12月会議)の報告を新田が行い、承認された。
- ・出張、休暇、研修等の不在予定。
ボスコ神父、1/8~2/9、休暇でベトナムへ。
ウェイン司教、1/14~1/15、日本カトリック神学院の黙想会 練馬。1/15~1/16、社会司教委員会 潮見。
- ・2025年12月に那覇教区で行われた韓国カトリック神学大学の教員研修会について、ウェイン司教から報告が行われた。沖縄への関心から、沖縄研修会が計画され、司教との面談や共同司式ミサ、また市内の小教区への訪問等が行われたことが報告された。
- ・12/27に安里教会で行われた青少年クリスマス会について、担当のブイ神父から報告が行われた。80人近い子供たちが集い、青年たちの指導でビンゴゲームやダンス、歌などを楽しみ、教区女性の会が用意した BBQに舌鼓をうって、クリスマスの喜びを分かち合ったことや会計報告などが行われた。司教からは、青少年クリスマス会は教区行事と位置付けて行われているので、各小教区では積極的に参加を促すよう要請が行われた。
- ・12/14に小祿教会を会場に行われた県民クリスマス会について、主任のマキシム神父から報告が行われた。キリスト教諸派で持ち回りで行っているクリスマスの集いに大勢の方々が参加され、それぞれ教派が素晴らしい聖歌を響かせてくれ、大いに盛り上がったこと等が報告された。
- ・カリタス沖縄の活動の一環として、12/20にメンバー8人で国場児童館を訪れ、クリスマス会を行ったことが、担当のマーシーさんから報告された。50名近く集まった子供たちとビンゴゲームやロドニー神父が扮するサンタクロースとの質問タイムを楽しみ、お菓子のプレゼントも頂いて、盛会となったことが報告された。
- ・各小教区でのクリスマスや新年の様子が主任司祭たちから報告された。多くの小教区とも信徒以外の参加者が増加していることが報告され、宣教の良い機会であることを再確認し、その責任者たる司教から労いと励ましの言葉が伝えられた。
- ・開南教会: カテドラルであるので、クリスマス、元旦とも司教司式のミサとなるので、例年のように大勢の参加があった。
- ・泡瀬教会: 12/24は夜のミサに100名余の参加だったが、25日は50人ほどの参加であった。
- ・与那原・大里教会: 例年通りの盛況であったが、大里の新年のミサには20名余が参列し、近年にない盛況振りであった。
- ・読谷教会: クリスマスと新年のミサには、外国籍の方々も来られ、多くの参列があった。
- ・名護・愛楽園教会: 普段の主日と変わらない人数であったが、祭日らしい空気感があった。
- ・石垣教会: 司祭として石垣で初めてのクリスマスを迎えたが、沢山の方々も参列下さったことに感激した。幼稚園や学校の影響もあり、信徒でない方々も参加されていた。
- ・具志川・コザ教会: ロドニー神父から、時間を調整しながら、2つの教会とも盛会のうちにミサが捧げられたことが報告された。
- ・宮古島平良教会: ピーター神父から、幼稚園の先生達や父兄、子供たちの参列もあり、盛況のうちにクリスマスと新年をお祝いしたことが報告された。
- ・首里教会: ボスコ神父から、クリスマス夜半のミサが95人、新年は50人ほどの参加であったことが報告された。新年は雨天のため車の祝別は行わず、運転者のためにお祈りを捧げたことが報告された。
- ・小祿教会: クリスマス前に、クリスマスミサへ参加希望の問合せが多数あり驚いたこと。12/24日と正月3ケ日のミサは通常より参列者が多く、信者以外の参加者多かったことが報告された。
- ・安里教会: 12/25日中のミサは、平日にもかかわらず参列者が多かった。1/1日はミサ後に車の祝別を行った。
- ・石川教会: 石川での初めてのクリスマスと新年のミサで、長崎と違う雰囲気にも多少戸惑った。参加者は通常の主日くらいの人数だった。

2. 審議事項

- ・教区報「南の光明」の運営について検討を重ね、新しい編集責任者に浜崎神父を任命し、新年度から新しい体制で紙面を整えていくことが報告された。また、これに連動してマーシーさんと青年たちが準備しているウェブ版も試作画面が披露され、新年度に向けて、教区広報委員会の刷新を図っていくことが報告された。また、これまでの「南の光明」というタイトルについても意見が出され、これを機に新しい誌名を公募し、将来に向けた刷新の歩みを進めていきたい旨の提案がなされた。
- ・2/11(水)教区の日について、担当のボスコ神父から報告と役割分担が提示された。第一朗読、首里教会。第二朗読、開南教会。奉納、小祿教会。待者、安里教会。パーティー、女性の会。また、叙階25周年が真栄原のデニス神父、修道誓願50周年がSr.テレジア、結婚50周年も与那原と小祿の信徒2組の申し込みを確認し、これをもって確定したことが報告された。

※次回司祭助祭拡大会議は2月11日(水)が教区の日で、石垣、宮古の司祭たちが来られるので、前日の10日、火曜日に司祭会議を行ってはどうかと提案があり、2月の司祭会議は2月10日の午前10時から、安里、教区センターで開催されることが決められた。

2026年1月20日 承認: ウェイン・バートン司教 記録: 新田 選

教区 NEWS 教会

北部地区3教会合同新年会

石川教会

1月11日、石川教会にて名護・具志川・石川の3教会による合同新年会が開催されました。当日は、司祭、シスター、そして信徒による多彩な余興が披露され、会場は終始温かな笑いと拍手に包まれました。来年度の担当は具志川教会となります。信徒だけではなく、信徒の子どもたちやお孫さんが参加できるよう、働きかけを強めていくことが非常に大切だと感じました。また、読谷教会も来年度からこの集いに加わることができるよう、心より願っております。



喜びと感謝のうちに —

愛児幼稚園 新たな歩み

開南教会



愛児幼稚園は、1954年の開園以来、4,900人を超える卒園生を送り出してまいりました。

カトリックの教えに基づき、すべての子どもをかけがえない存在として尊重し、世界的に評価されているモンテッソーリ教育を取り入れながら、異年齢の子どもたちが共に学び、助け合い、成長できる縦割り保育を大切にしています。「よろこびいっぱい、笑顔あふれる幼稚園」をモットーに、職員一同、日々真剣に子どもたちと向き合っておりましました。

これまで使用してきた園舎は1972年に建設され、50年以上にわたり多くの子どもたちを見守ってきた大切な建物です。しかし近年、老朽化が著しく進み、保育室の床の盛り上がりや電気設備の不具合、壁面の劣化など、安全面での懸念が増してまいりました。最低限の修繕を重ね

ながら施設の維持に努めてまいりましたが、子どもたちのいのちと安全を守る責務を改めて見つめ直し、より良い保育環境を整えたいとの思いから、これまで園庭として使用していた敷地に新園舎を建設する計画を立てました。少子化の進行や厳しい社会経済情勢の中で、この決断は決して容易なものではありませんでした。しかし、「小さき者の一人にしたことは、わたしにしたのである」という主の御言葉に支えられ、未来を担う子どもたちのために最善を尽くしたいとの思いで、この事業計画をスタートし2025年4月着工する運びとなりました。

設計の見直しや確認申請に時間を要したため、着工時期の遅れが発生し、また建築資材の高騰の影響を受け、当初の予算を上回る状況となりました。そのため工事期間中にクラウドファンディングを立ち上げ、卒園生やそのご家族、関係者の皆様のご支援に加え、特に隣接する開南教会の信者の皆様をはじめ、多くの信者の兄弟姉妹の皆様から温かいご支援を賜りました。物価高騰が続く、何かと出費の多い厳しい経済状況の中であって、格別のご厚情とご支援をお寄せいただきましたことに、心より深く感謝申し上げます。

2025年12月、新園舎は無事に完成し、12月26日に引っ越しを行いました。そして今年1月5日には、ウェイン司教様の司式のもと、祝福式・落成式を滞りなく執り行うことができました。新園舎への引っ越し後、子どもたちは新しい保育室や設備に目を輝かせながら、のびのびとした環境の中で喜びをもって園生活を送っています。

愛児幼稚園は新園舎を迎え、これまでの歩みと歴史の上に、新たな恵みと命をいただきました。感謝の思いを胸に、これから始まる新たな歩みにおいてもキリストに導かれながら、子どもたちと共に喜びを分かち合い、信仰と愛に根ざした保育を続けてまいります。今後とも、変わらぬご理解とお力添えを賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

(愛児幼稚園職員 福田理依乃)



那覇教区 女性の会 新年の集い

普天間教会 石原 早苗

去る1月24日土曜日に女性の会の新年の集いが安里教会にて開かれました。ウェイン司教様の講話から始まり、懇親会の食事をして皆で楽しく過ごすことができました。はじめに司教様から、女性の会の皆様に対してサマーキャンプの協力などについての感謝の言葉が伝えられました。講話では平和を皆で作ることの重要性を語っておられ、教皇様の語られた言葉をまとめて短い言葉にしたものを今年度の教区目標に掲げたということでした。平和は聖なるものであり、それになるためには、まず平和は神のみ旨であるということを理解する必要がある。宗教によっては、自分と同じ信仰を持っていないものを排除するために神の名によって戦争を起こすということをしている。カトリックも歴史上においてそういうことをしていたが現在では聖書に立ち戻ってそういうことは一切していない。聖書に立ち戻ること、戦争は神のみ旨ではないということを昨今の世界の動きも踏まえて意識を明らかにすることが重要であるということをお話しておられました。講話の後の質疑応答では信徒の質問に対してとても丁寧に、時間をかけて答えておられました。

講話の後女性の会の新年のお祈りと共同祈願を祈り、食事会へと進みました。久しぶりに会って喜びあう姿、楽しく食事をする姿があちこちで見られ、とても良い雰囲気です。各小教区の活動報告をしていただいた際に、最初は遠慮がちで前にも億劫がっていた方達が一度マイクを持った途端に饒舌になり、とうとう教会に対する思い、信仰に対する思いを切々と語る姿、その語りに感動する方々もおられました。女性の会はそれぞれの小教区の横の繋がりを大事にしている会でもあると痛感した次第です。女性の会理事による日本女性カトリック連盟のアピールも忘れずにさせていただきました。日力連との繋がりと小教区の横の繋がりを大事にしつつ、今年もまた一年駆け抜けて行きます。皆様どうぞよろしくお願いいたします。



教皇レオ十四世、「聖フランシスコ年」を公布

教皇庁内赦院は1月16日、教皇レオ十四世が2026年1月10日から2027年1月10日まで、聖フランシスコ没後800年を記念する「聖フランシスコ年」とすることを発表し、同期間に全免償を与える教令を公布しました。

親愛なる兄弟の皆様。強い信仰と堅固な希望を抱き、隣人に対する熱心な愛に燃えた、聖フランシスコの模範と霊的遺産が、主に信頼を置き、福音に忠実に従う生活に自分をささげ、人生のあらゆる状況と行為を信仰と祈りによって受け入れ、照らすことの重要性を、すべての人に思い起こさせてくれますように。

この恵みの年にあたり、アッシジの聖フランシスコがわたしたち皆のうちに完全な喜びと調和を注ぎ続けてくれるように、皆様に次の祈りを手渡したいと思います。

わたしたちの兄弟である聖フランシスコ。あなたは 800 年前に平和の人として、姉妹である死に会いに行きました。主のみ前でわたしたちのために執り成してください。あなたはサン・ダミアーノの十字架のキリストのうちにまことの平和を見いだしました。十字架のキリストのうちに、すべての壁を打ち壊す、和解の源泉を求めることを教えてください。あなたは武器をもたずに、戦争と無理解の境界を通りました。世が国境を築くところに橋を架ける勇気をわたしたちに与えてください。紛争と分裂に苦しむこの時代に平和を実現する者となることができるように執り成してください。わたしたちがキリストからもたらされる、武器のない、武器を取り除く平和の証人となれますように。アーメン。 パチカンにて、2026年1月7日 教皇レオ十四世

※第二次世界大戦後琉球列島は、教皇庁直轄の琉球列島使徒座管理区として一時的にグアム使徒座代理区に委託され、カプチン・フランシスコ修道会より宣教師を派遣されて、今日に至ります。那覇教区は、アッシジの聖フランシスコを創立者とする修道会によって導かれ、発展してきました。感謝のうちに「聖フランシスコ年」を過ごして参りましょう。



2月 一日黙想会へのご案内

担当：クレーバー・ディ・ソーザ神父
(与那原教会主任)

テーマ：イエスは言われた

- ・日 時 2月14日(土)
- ・会 場 聖クララ修道院 (与那原教会)
- ・受 付 09:30
- ・講 話 10:00~11:00
- ・休 憩 11:00~11:15
- ・個人黙想 11:15~12:15 (ゆるしの秘跡：希望者)
- ・昼 休 12:15~13:00
- ・分かち合い 13:00~14:30 (各4班に分かれて行います)
- ・掃 除 14:30~14:50 (会議室と食堂の清掃及び復旧、
終わり次第、速やかに聖堂へ移動
してください)
- ・ミ サ 15:00~16:00

※持参するもの 聖書・弁当・飲み物・会費500円
問合せ先：098-945-2354 098-945-8649
聖マリアの汚れなき御心のフランシスコ姉妹会

あなたを待つ者に計らってくださる方は
神よ、あなたのほかにはありません。

祝 2026年2月11日(火)
教区の日

教区創立の記念日を感謝すると共に、教区で働
く司祭、修道者たちの記念日と金婚式を迎える信徒
のために、ミサの中でお祈りいたします。

- ◆感謝ミサ：午後2時より ◆場所：安里教会
- ◆祝賀会：午後3時30分~5時

「第34回世界病者の日」
(2月11日)



教区の日 2月11日は
世界病者の日でもあります。
病に苦しむすべての方のため、
お祈りいたしましょう！

那覇教区子どもと
女性の権利を擁護するデスク



相談窓口
☎098-863-2020
火・水・木
13:00~17:00



NPO 法人ぶどう園の会

訪問看護ステーションクララ



TEL&FAX:098-937-5001
住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15
・基本受付 月曜日~金曜日(申込、相談など)
・営業時間 8:30~17:30
・営業日 24時間365日(緊急対応含む)



葬祭の
「やすらい企画」

私たちは故人とご遺族の意向
を最優先に考えます。何でもご
相談下さい。

那覇市首里鳥堀町4-57-3
TEL&FAX:098-885-8205
<http://w1.nirai.ne.jp/yasurai>
E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

24時間
受付

24時間
受付

てんごく
☎098-853-1059



~ご遺族の心をもって奉仕する~
そうてんしゃ

葬 典 社

- *創業30数余年・・・。
- *皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるための
お手伝いをさせていただいております。
- *ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。
「ゆうなの会」会員募集中です。

ひが たかしげ
(実務担当) 比嘉 高茂